

# NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

長野都市経営研究所

Vol.10

2001. MAY

発行日 / 2001年5月20日( 年4回 )

長野都市経営研究所

発行 / 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

## 長野市の街づくりに提案!

### 長澤忠信氏を迎えて

爽やかな春の彩りを感じる今日この頃、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、この度停滞ぎみの長野市を見かねて、長野市出身で現在は東京でデザイナーとして活躍されている長澤忠信氏より、街づくりに関する提案が事務局に寄せられました。さっそく3月26日、氏を招いての公開部会が行われました。現実味のある素敵な提案ですので、ご紹介いたします。



長澤忠信氏

**論議をしている場合ではない  
ビジョンを持つて具体的な実践を!**

私は長野市の出身で、高校まで長野にあり、大学から東京に行きました。大学卒業後35年、特に商業環境を中心にデザインの仕事をしてきました。

ことの始まりは、昨年、ダイエーの跡地に何かよいテナントはないかと尋ねられたことです。しかし、ダイエーの場所によりテナントを入れただけでは解決しないだろうと思いました。よいテナントを入れるには、環境の整備をしないと難しいのではないかと。私がお手伝いするならば、根本的なところから始めたい。街全体をどのようなビジョンで具体的にどうするか。現実にはできないことを考えても仕方がないわけで、実現できる案でなければ意味がありません。地元にも様々な都市計画があり、都市関係の先生がいっぱいいますが、それはさておき、私もランドデザインを作ってみました。商店街にも1回提案し、その後、地

元の友人にも相談しました。友人には「長野市はまとまらない、苦勞するだけだからやめておきなさい」ということも言われましたが、私も生きていく証としてやるべきことはやりたい、やるだけやって必要がなかったら潔く引き下ればよいんじゃないかと思えました。今では当初、反対していた人たちも積極的に会議に出席してくれ、非常に嬉しく思っています。今日は、今までの話し合いから出てきたものを加味しながら修正を加えた提案を説明させていただきます。今までも大学の先生などによるフォーラムがあったと聞いていますが、もう論議をしている段階ではないと思います。

**長野市のスローガンを確認し、  
活性化につなげていく**

「やすらぎの文化都市長野21」とありますが、当初の案では「仏都」ということで攻めてきました。仏都といっても長野市にはキリスト教の方もいますし、偏った街になつてはいけないということで、基本的に「文化都市」という位置づけになりました。長野市のスローガンは「五輪の感動を未来へ、夢きらめく交流とやすらぎのまち長野」です。これをベースにして、文化とスポーツを振興しながら、活性化につなげていくことが大事だと思います。長野市にはマスタープランというものがあり、大変立派にできていますが、具体的にどこをどうするかは全く見えていません。これはもう少し具体的にしていきたいと思っています。

活性化の要素の1番目としては、「長野の自然と独自文化の再認識」があげられます。基本的に長野は善光寺さんで成り立っているということを認めざるを得ません。門前町の街道である中央通りは参道であり、街づくりの基本となります。また、オリンピックが開催され、表彰式が行われた場所が駐車場になっているのを、市民がもつたないという意識を持たないといけないと思います。

2番目は「にぎわい、ふれあいの魅力づくり」です。そのためにいろいろなエンターテイメントを実現できる環境が必要で、交通のアクセスもよくしていかないとはいけません。高齢化社会が進み、いろいろなカルチャーが盛んにな

っている中で、それらを発表できる場を作ったものを販売できる場、公衆温泉などがあればいいと思います。

3番目は「生活上とやらが自慢」です。長野にしかないものを開発することが大切です。長野が面白い、長野に行ってみようという気持ちになるもの、長野に来なければ楽しいものをつくる必要があります。また、高齢化社会が進む中で、マンションと商業と住居が隣接した安心できる環境づくりが必要です。

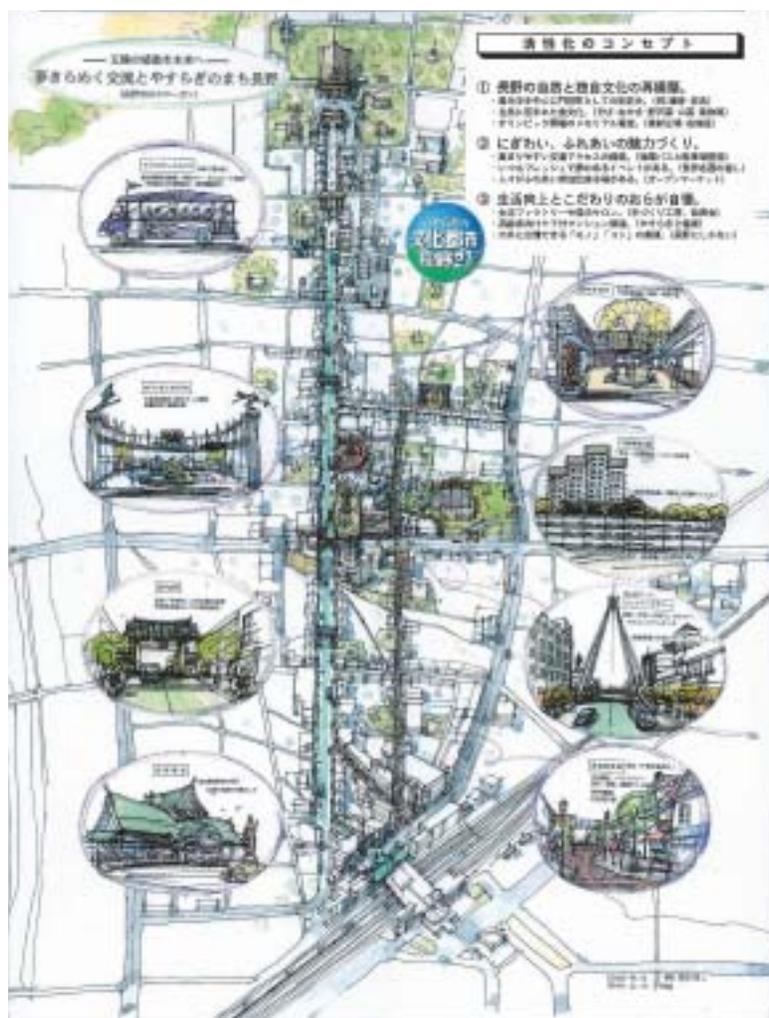
**現状認識とアイデンティティの再確認をして  
活性化のための戦略を立てよう**

長野市中心市街地活性化への考察として、まず最初に「現状認識」ということがあげられます。市街地の商圏人口は現在約50万人ということですが、目標として150万人にしてもいいポテンシャルがあります。ただこのままにしておけば、50万人が30万、20万になり、廃墟になってしまいます。現在、車利用が43・2%、徒歩・自転車利用が35%ということから、駐車場の案内をしつかりと行わないといけません。また、活性化についての関心認知度が27・6%と、非常に関心が薄いんです。商店街の人たちが消極的で様子見をしている状態ではお客さんも認知するわけがない、声を大にしていかなければいけません。市の担当者、街づくりに対する意見を皆が発表できる場がどこかにあるのかと聞きましたら、広報室にアンケートに応えた資料はあるという程度で、積極的に街づくりに取り組むための具体的な施設は何もないそうです。ダイエーがその跡地に1ヶ月なり街づくりギャラリーをオープンさせて、皆で意見を出し合える場をつくる必要があると思います。お釈迦様の教えに「諸行無常」という言葉があります。これは宗教的な教えというより、文化的な教えだと思っんです。善光寺は宗派に関係なく庶民に開かれた世界的にも有名なお寺です。そのお釈迦様の教えの「諸行無常」とは、世の中は常に変化を遂げる、だから常に勉強しないと生きていけない、皆が協力していかないとダメだよということ。普遍性の高い、宗教の枠を越えた「生き方」の教えだと思えます。このことを踏まえながら、時代の変化に対応していかなければならないと思います。

2番目が「アイデンティティの再確認」です。アイデンティティをしつかりさせ、市民レベルにまで長野市はこうなんだという展開が必要です。今、土地の価値も家賃も下がっていますが、それなりの賑わいが出てくれば、付加価値も上がってきます。努力をして、世界の文化都市長野へ資産価値を上げていかなければいけません。

## 長野中心市街地活性化への考察

(重点イメージスケッチ)



3番目は「活性化戦略」です。生活者だけでなく、商工業者など様々な分野の人が、しっかりとした街づくりのコンセプトを一緒につくっていくことが必要です。ソフトだけでなくハードの面もどうするかやるとなったら街にも活気が出てきます。そういう動きが活性化の材料にもなります。昔の10年と今の1〜2年は同じぐらいのスピードで変化しています。様子見から実践へ、もはや理屈を言っているときではありません。

4番目は「推進する気概」です。やる気があれば国もお金を出してくれます。そして最終的には人的資源、リーダーがいて、情報をとってくるキジ、知恵の働くサル、行動力のあるイヌ、こういう人たちが一体となってやる。そういう気概が必要です。当然、総論賛成、各論反対といった声が出てくるわけですが、トータルでお客さんがくれればよいわけです。説得の勇氣や急がばまわれの根拠も必要です。私の案は決してお金のかかる案ではありません。決して恐れることはありません。案するより産むが易いではないでしょうか。

5番目は「推進する体制」。既にTMOを立ち上げて今年から始める、コンサルタントも決まったと聞き、嬉しく思っています。停滞するのは後退する

ことと同じことですから、まず一歩前進することが大事だと思います。

その他、開発資金の導入については、長期的には自分たちでお金を調達してくるぐらいの気力がないとダメです。行政におんぶにだっこではなく、違つことを考えていく必要があります。戦略的に有効な資金活用も必要です。

### 中央通りを参道としての位置づけに千歳通りを歩いて楽しい通りに

ものごとを進める上ではある程度割り切っていないといけません。あつちもこつちもというのではなく、長野市の場合はいくつかの跡地から攻めていかないといいないと思います。街というのは、長野市だけのものではなく日本のものなんです。国が支援しようとするのだから、国の財産でもあるのです。長野に住む人たちが長野をよくすることは、長野に住む人の使命だと思います。そういうことを認識しないとけないと思います。善光寺の住職さんや商店街の会長と話をしたことがあるんですが、今まで善光寺と商店街が話し合いをしたことがあるかとお聞きしたら、1回もないという事です。商

店街は善光寺をあてにしてたらダメだよという言い方をしましたが、それではダメなんです。商店街の人にも話しましたが、中央通りは参道だということに再認識して欲しい。参道は歩いて20分のちょうどよい距離なんです。動く歩道を造るといふ案ができて決定したと聞きましたが、歩け歩けといわれている時代にどうしてそんなものを造るのか、保守点検にいくらかかるのか、景観も悪くなるし、そんな近代的なものを造る必要はないと話した覚えがあります。

また、長野駅の駅舎がなくなってしまう、本当にがっかりしました。街づくりを考える上で、なぜこれをなくしたかというところから始めないと解決できないというぐらい重要なことです。昔、田舎から出てきたおばあちゃん、善光寺と間違えて駅舎を拜んだという話もあるぐらいです。仏閣型の貴重で文化的な建物を簡単に取り壊し、どこに行ってもあるような、門前町の駅としては恥ずかしいような駅を造った。これを何とか元の駅舎に復元して、中央通りも参道らしくしたいと思っています。駅を降りると鉄のパイプの門があります、あんなみずぼらしいものはありません。仮に平成門としますが、駅を降りるとハツとする、長野に来たんだと感動するような門を造ってはどうかと思います。善光寺というのは門を通して見る、基本的に寺院というのはそういうふうになってきているんです。去年、門を造る案に国は援助をしてくれるのかとお聞きしたところ、市民の利便を考えてトイレを造るなり商店街の看板を一部付けられるようにすれば、補助金は出せるということでした。国では街づくりを支援する予算が余っているそうですが、具体的な計画が上がってこない、計画が部分的な点で、トータルでの懸案が出てこないということです。

また、中央通りを往復するというのは、人間の心理として非常に難しいわけです。今、千歳通りでは12mの拡幅計画があるそうです。慌てて市の都市計画課に図面を見せて欲しいと頼みました。地権者にしか見せられないと言われましたが、市民さんだから見せてくれと頼み、見せていただきました。そうしましたら、全く無機質な垂直の道路計画で、既に昨年予算が市議会を通して、立ち退きの交渉に入っているという事です。私には広くする理由がわからない。今からでもやめられるならやめて欲しいです。回遊性というのが大事で、人間は横のつながり、横

丁通りというのが好みます。街を一つのモールとして考える必要があります。人が歩いて楽しい街、歩行者の通りにすべきだと思います。名前は「千歳楽喜(ラッキー)通り」はいかがでしょう。膨大な金額をかけて拡幅するぐらいなら、駅舎を復元したりペDESTリアンデッキや門を造るなど簡単にできます。道路と広場、駐車場を整えば、自然とよいテナントはくっついてきます。

中央通りと昭和通りの交差点角に、さくら銀行、八十二銀行、第一勧銀がありますが、日曜になるとシャッターを閉めて涼しい顔をしています。ある地方では、銀行は一切1階に出店してはいけない、2階あるいは地下に出すようにと条例をつくり、街の活気を保っているそうです。八十二銀行に尋ねたところ、中央通りからは撤退し、そこには新しいビルを建て展示場にするそうです。そんなに急がずに、街のランドデザインがある程度見えてきたところで始めてもよいのではないかと思います。そして、この交差点にはランドマークとしてタワーを造ることを提案します。これは、お客さんが集まってくる一つの目標、求心力になります。長野は門前町であり国際都市ですから、「平和への祈りのタワー」ということはいかがでしょうか。

中央通りでは大型バスが排気ガスをふかしながら走っています。中央通りは参道という位置づけで、大型バスは一切通行禁止にすべきだと思います。市の担当者にお聞きしたら、歩く人を中心に考えているという話がありました。しかし、ただ歩くだけにしてもいけないので、マイクロバスと乗用車だけの道路にすればよいと思います。ちなみに、先ほどの平成門は、歩道には造らず車道に造ります。車道側に造ることで道を狭くする。マイクロバスが2台通ればよい、大型バスは通れないようにするんです。

今の善光寺行きのバスは、何だかお葬式に行くようなバスなんです。これをもう一回り小さくして、「牛に引かれて善光寺参り」のイラストが描かれたマイクロバスにする。本物の牛車にしてもいいぐらいです。窓はなく、風が吹いて雪が舞い込むぐらいオープンなバスでもいいと思います。排気ガスをふかさず20キロぐらいの速度で、車体は住職の袈裟の色にするなど、それなりの雰囲気のあるバスにして欲しいです。

また、鍋屋田、後町、山王小学校が統合されて一



# NPO・TMOについて

4月27日、NUPRIの全体懇談会が行われました。NPO法人について長野県NPOセンター事務局長の市川博美氏に、TMOについてタウンマネージャーをお願いしている南部繁樹氏にお話を伺いました。なお、NUPRIは6月18日の総会において従来の任意団体を解散させNPO法人を設立させることが決定しています。TMOについては、3月に準備会、9、10月にTMOそのものを立ち上げようと、商工会議所と長野市との間で合意ができています。

長野県NPOセンター事務局長 市川博美氏



NUPRIさんのような大きな組織がNPO法人を設立させるということについては、長野県内ではまだありません。申請されれば、県内では最も大きなNPO法人になるでしょう。NPOはつい最近できたものではなく、ずっと以前から存在しています。最近の社会変化の中で分類分けをしたときに初めてNPOというカテゴリーができあがったのです。例えば、何かやりたいことがあったときにそれを私たちができる場合は基本的に4つあります。政府・行政、企業、NGO・NPO、組織に属さないフリーランス、この4つが現在の日本社会の柱となっています。

NPOはNon Profit Organization（民間非営利組織）の略です。非営利とは、利益配分を行わないということことです。スタッフに無賃金で働いてもらうのではなく、給料を決めて払い、それ以上に利益が上がったときにはその団体の目的のために投資をするということことです。NPOは、広義では財団法人や社団法人など法人と名の付くもの、組合、生協などがあげられます。しかし、一般的に話題になっているのは任意団体と

しての市民活動団体やNPO法人のことです。NPO法人というのは、NPO法（特定非営利活動促進法）によって、法人格を与えられた市民活動団体や市民事業体をさしています。他の公益法人などと比べると、NPO法人格の取得条件は易しく、政治結社や宗教団体等を除いた特定の非営利活動を行う団体で、10人の賛同者がいて事務所の電話番号と住所があれば資金ゼロで場所がなくてもいいというものです。企業は市民サービスを行うことで対価が入ります。行政は市民サービスを行うことで税金が入ります。NPOは市民サービスを行うことでどういってお金が入るか。NPOには、会費、寄付金、助成金、企業と同じような収益活動、行政からの委託（もとは税金）という5つの口があります。この部分で誤解を受けやすいのです。しかし、人が社会的活動をしたときの選択肢は、行政、企業、NPO、フリーランスの4つがあります。例えば、NPO法人として活動を行い、収益が上がったところは切り離して有限会社にすることもできます。つまり、どれがよいというのではなく、どの部分でやればその活動が一番やりやすいかということが重要なのです。

企業は市民サービスを行うことで対価が入ります。行政は市民サービスを行うことで税金が入ります。NPOは市民サービスを行うことでどういとお金が入るか。NPOには、会費、寄付金、助成金、企業と同じような収益活動、行政からの委託（もとは税金）という5つの口があります。この部分で誤解を受けやすいのです。しかし、人が社会的活動をしたときの選択肢は、行政、企業、NPO、フリーランスの4つがあります。例えば、NPO法人として活動を行い、収益が上がったところは切り離して有限会社にすることもできます。つまり、どれがよいというのではなく、どの部分でやればその活動が一番やりやすいかということが重要なのです。

新庄TCM(株)(株)都市構造研究センター 代表取締役 南部繁樹氏



都市はどのようになり成長してきたのか、成長を支えてきたものは何かという原点に立ち返るというのがタウンマネージメントです。いろいろな方の言葉を引用すると、街の中心は「地域経済の発電所」「都市のリビングルーム」と言われています。しかし現実の都市はこういう状況になっていない。そこで、タウンマ

いろいろな方の言葉を引用すると、街の中心は「地域経済の発電所」「都市のリビングルーム」と言われています。しかし現実の都市はこういう状況になっていない。そこで、タウンマ

ネージメントという実践的手法をアメリカの方々が考え出しました。日本では、国が財政的に支援をする場合にはTMOは各都市に1つという原則がありますが、長野市のように合併してそれぞれの地域に街のコアがある場合は複数つくってもよい、長野市の場合は3つあってもよいということになります。そして、国から資金的な支援をいただくにはTMOを認定するという手続きが必要です。認定するのは基礎自治体の首長、長野市の場合は塚田市長です。なお、株主の数で支援の度合いが変わるといことはありません。

国は、TMO関連に1000億の予算を毎年計上しています。しかし、12年度までは全額が使われませんでした。手続きが非常に複雑で、TMOへの縛りをかけすぎたということです。ところで、国はなぜこの制度をつくったのか。商業政策だけで我が国の街を再生するのは無理だ、原点に返って街のバックグラウンドを整備しながら商店街を考えよう、そのために誰を支援すればよいのか。そこで昭和63年当時の通産省が街づくり会社という制度をつくりました。後に、この制度の問題点を改善したTMOができました。TMOは市町村からの出資要件はありません。ただし、国から相当の財政支援を受けるときには、基礎自治体が3%以上出資していることが条件です。

結果を出すには、プランニング戦略（土地利用など都市システムのプラン）、デベロップメント戦略（実現するための手法）、マネジメント戦略（つくったものがつくった次の日から、つくった以上の効果と新しいエネルギーを生み出すための戦略）が大切です。特に、マネジメント戦略は官民のパートナーシップが最も重要です。TMOは街を変えるためにあらゆることをやらなければならない使命を担っています。多様な願いを実現しなければなりません。どこまで達成すれば満足できるのか。手段の背後に目標がある。これをアメリカではゴールといいます。必ず達成しなければいけないのがゴールです。できないことも、TMOをつくりそれぞれ

の力を結集することで達成できます。経営的に運営できるのが全国各地のTMOの課題となっています。TMOの場合、会社全体の経営と、一つ一つの事業の経営を分けて考



えてください。街を活性化するために一つ一つの事業を起こしていくことが大切で、その結果経済的な効果が生まれるのです。事業は企業も含めて一人一人が行うものですが、それでは効果が上がらない、そこでTMOとパートナーシップを組むことが有効になってくるのです。同じ目的意識を持ち共通の利益を生み出すパートナー、可能性を最大限に発揮できるパートナーと一緒に事業を行うことが大きなポイントです。

どこの国でも、株式会社となるTMOが増えています。最終的に事業を行わなければならない環境は変わらない、そのために会社をつくり、責任と目標を明確にする。長野のTMOも株式会社をつくり、持ち株会社形態で柔軟に事業ができるようチャンネルを広げることが望ましいと思います。表参道は1本の道ですが、置かれている環境やビジネスの内容、儲けの質が違う。これを一つの事業でくくるには相当の無理がある。だから、一つ一つの力を支えながら一つの軸を再生させていくという仕組みの方がいい。全体を束ねるのがTMOです。一日も早く事業を立ち上げ、事業そのものから収益を上げなければならぬ、そして運営していくことが大原則です。